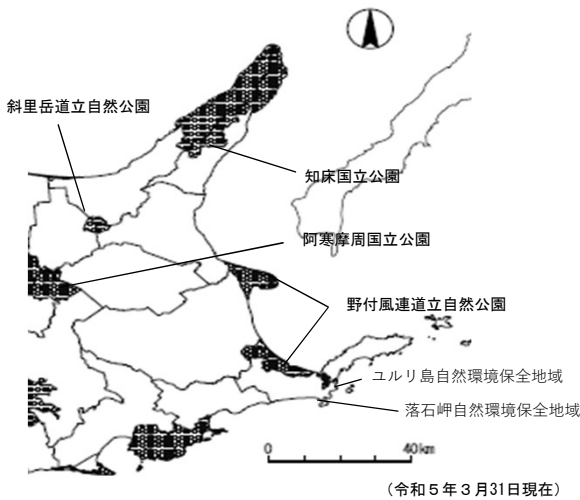


Природа 自然

●根室の自然

管内は、知床連山や根釧原野の地平線など、雄大な自然景観を有し、多様な野生生物が生息する北海道のなかでも豊かな自然が残された地域であり、原生的な自然で最後の秘境と呼ばれる「知床国立公園」や、日本最大級の砂嘴の野付半島や風蓮湖などの湖沼を有する「野付風蓮道立自然公園」など4ヶ所の自然公園をはじめ、国指定の原生自然環境保全地域や2ヶ所の道自然環境保全地域、14ヶ所の鳥獣保護区が指定されています。また、管内の自然は、タンチョウやシマフクロウ、オジロワシなどの多くの希少な鳥類を始め、多くの野生生物の重要な生息地にもなっています。根室振興局では、環境省などの関係機関と協力し、これらの貴重な自然環境の保全と適正な利用を図るとともに、野生生物の管理に取り組んでいます。

根室振興局管内自然公園等位置図



根室振興局管内の自然公園

公園名	知床国立公園	阿寒摩周国立公園	野付風蓮道立自然公園	斜里岳道立自然公園
指定年月日	S39. 6. 1	S9. 12. 4	S37. 12. 27	S55. 11. 13
指定面積	60,989ha うち陸域 38,636ha	91,413ha	11,692ha	2,979ha
管内面積	15,625ha (海域を含まず)	537ha	11,692ha	816ha
関係総合振興局・振興局	根室、オホーツク	根室、十勝、釧路、オホーツク	根室	根室、オホーツク
根室管内の関係市町	羅臼町	中標津町	根室市、別海町、標津町	標津町

●ラムサール条約とは

昭和46年（1971年）にイランのラムサール（カスピ海沿岸の町）で開催された「湿地及び水鳥の保全のための国際会議」において本条約が作成され、開催地にちなんで、一般的に「ラムサール条約」と呼ばれています。

この条約での湿地保全のあり方に「賢明な利用（wise use ワイズユース）」という原則があり、これは、良好な湿地環境を次代に受け継いでいながら、湿地の有形・無形の資源を持続的に利用・活用していくこと。つまり、湿原を守りながら、人間の活動（漁業など）も両立させるということを意味しています。



●春国岱全景

根室振興局管内のラムサール条約登録湿地

●条約の内容

この条約は、特に水鳥の生息地等として国際的に重要な湿地及びそこに生息・生育する動植物の保全を推進することを目的とし、各条約国がその領域内にある湿地を1ヶ所以上指定し、条約事務局に登録するとともに、湿地及びその動植物、特に水鳥の保全促進のために各条約国がとるべき措置等について規定しています。2019年2月28日現在、締約国170ヶ国、登録湿地数2,341ヶ所（国内52ヶ所、道内13ヶ所）

登録湿地名	風蓮湖・春国岱	野付半島・野付湾
指定年月日	H17. 11. 8	H17. 11. 8
所在地	根室市、別海町	別海町、標津町
面積	6,139ha	6,053ha
湿地の特徴	汽水湖、低層湿原、藻場、タンチョウ繁殖地、大規模キアシシギ・オオハクチョウ等渡来地	塩生湿地、低層湿原、藻場、タンチョウ繁殖地、大規模コクガン・ホオジロガモ等渡来地
保護の形態	国指定鳥獣保護区特別保護地区	同左
備考	野付風蓮道立自然公園区域内	同左

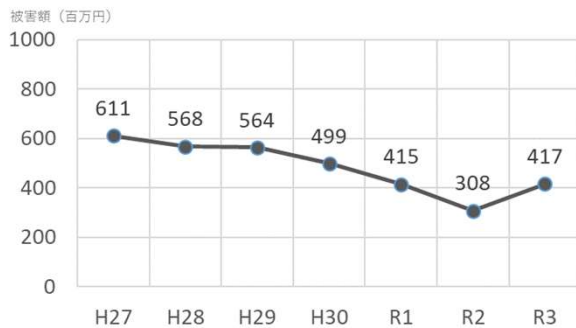
●根室管内のエゾシカ対策

根室振興局管内では、海岸部（野付半島、走古丹、春国岱、落石等）を中心に、エゾシカの越冬地が各所に点在しています。近年、国、市町、そして根室振興局の捕獲事業等により、その推定生息数はH23年度の77万頭をピークにR3年度は69万頭と減少傾向にあるものの、未だ農林業被害、交通事故、さらにはJR花咲線運行への影響など人間活動とのあつれきが課題となっています。

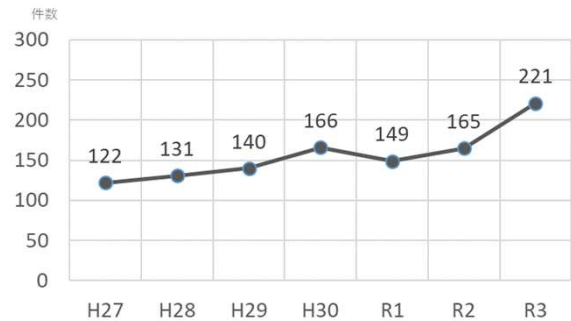
一方、捕獲されたエゾシカの有効活用率は全道平均で23%となっており、その活用は積極的に進められ、「北海道エゾシカ肉処理施設認証制度」の認証施設等を中心に、安全・安心なエゾシカ肉の加工、販売等が行われておりますが、有効活用率の向上が課題となっています。

引き続き、根室振興局では、地域と連携したエゾシカ高密度地帯への囲いわな集中設置等、より効果的な捕獲の推進をはじめ、ジビエに関する各種制度活用促進や地域ブランド化を通じて捕獲個体が最大限有効活用されるよう、取組を進めてまいります。

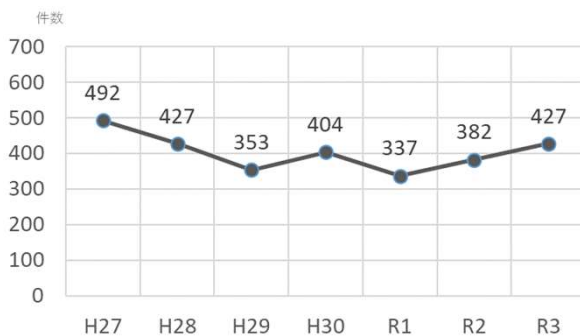
エゾシカによる農林業被害額（根室管内）



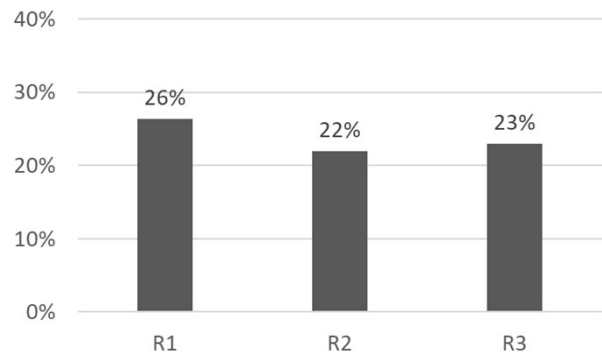
エゾシカが関係する交通事故発生状況



JR花咲線におけるエゾシカによる支障（事故等）件数



エゾシカ有効活用率（H30年度）



●囲いわなで捕獲されたエゾシカ（根室市落石）



●シカの炭火焼き

●世界遺産とは

世界遺産とは、地球の歴史の中で育まれた貴重な自然や、人類が現在に至るまで残してきた遺跡や文化財などを「人類のための遺産」として国際協力の下に保護・保全し、次世代へ継承していくことを目的に、1972年にユネスコで採択された「世界遺産条約」に基づき「世界遺産リスト」に登録された物件をいいます。世界遺産には、知床や屋久島、ロッキー山脈などの「自然遺産」、万里の長城やピラミッド、法隆寺などの「文化遺産」、カッパドキアの岩窟や中国の泰山など、両者を兼ね備えた「複合遺産」があります。（2019年現在登録件数1121件（自然遺産213件、文化遺産869件、複合遺産39件））

世界遺産リストに登録されると、「人類の遺産」として世界にアピールできると同時に、国際的な枠組みの中で、遺産の保護や保全を図っていくことが求められます。



●知床半島

●知床世界自然遺産

知床半島は、羅臼岳を主峰とする火山群と深い原生林、海蝕崖の豪壮な海岸景観など、すぐれた自然景観を有するとともに、ヒグマやシマフクロウに代表される野生動物が多く生息しています。このため、「知床国立公園」や「知床鳥獣保護区」などの指定を受け、北半球南限の流水に支えられた豊かな海洋生態系と、原始性の高い陸域生態系との相互関係、シマフクロウやオオワシなど世界的にも希少な鳥類（絶滅危惧種）の生息地となっていることが評価され、平成17年7月、ユネスコ世界自然遺産に登録されました。漁業や観光などの地域産業との共生を図りながら、地域住民の理解と協力の下、自然との共生を目的とした様々な取り組みが進められています。



●羅臼湖三の沼



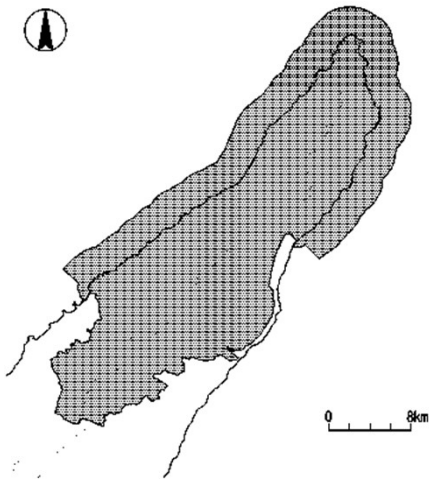
●ヒグマ



●オオワシ

Природа 自然

知床世界自然遺産地域の概要



所在地	目梨郡羅臼町及び 斜里郡斜里町（知床半島の一部）
面積	71,000ha（陸域48,700ha、海域22,300ha）
保護の担保措置	遠音別岳原生自然環境保全地域、知床国立公園、知床森林生態系保護地域等に指定されている。
自然環境の主な特徴	○知床は、北半球で最も低緯度の季節海水域であり、海水に特徴づけられている海洋生態系と陸上生態系と連続することによって複合生態系を形成しており、海洋生態系と陸域生態系の相互関係を示している。
	○海岸から約1,600mの山頂部までの間には、人手の入っていない多様な植生が連続して存在しており、豊富な餌資源と多様な環境を背景として、ヒグマは世界的にも高密度で生息している。
	○知床は、北方系と南方系の種が混在するなど、地理的位置と多様な自然環境を背景として特異な種構成、分布がみられるほか、シマフクロウ、オオワシ、オジロワシなどの国際的希少種の重要な繁殖地や越冬地となっており、これらの種の存在に不可欠な地域となっている。

世界の宝 しれとこ宣言

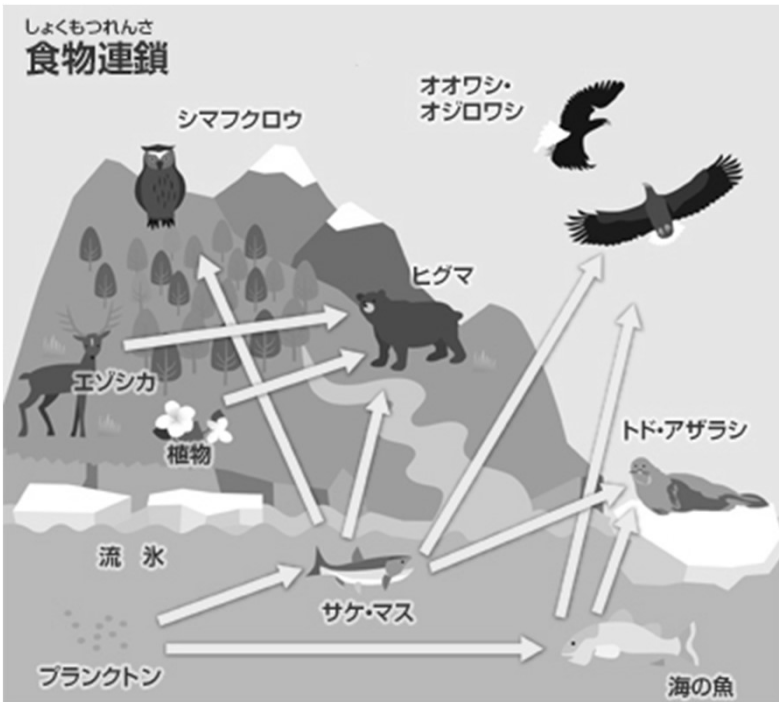
知床は、海と陸の生態系と生物の多様性が類いまれな価値をもつ、世界自然遺産です。

知床は、北半球で流水が接岸する世界最南端の地であり、海から陸に繋がる生態系の微妙なバランスの下で多様な動植物が混在し、オオワシやオジロワシなどの国際的希少種の重要な繁殖地にもなっています。そして豊かな海の恵みは、遡上する魚によって森に運ばれ、そこに生息するヒグマなどの動物を育ててきました。この大いなる知床の自然環境は、いにしへの時代から、この地に息づく多様な「いのち」の営みを支えています。

世界自然遺産「知床」を、人類共有の財産として、次の世代に責任を持って引き継いでいくためにも、私たちは、尊い歴史の歩みと大地の記憶を心に刻み込み、アイヌの人達をはじめ地域の先人達がこれまで培ってきた知恵と技術をしっかりと学びながら、道民一丸となって世界に誇る知床の適正な利用と保全に努めていくことをここに宣言します。

平成17年10月30日

北海道知事 高橋 はるみ
斜里町長 午来 昌
羅臼町長 脇 紀美夫



●サケを食べるカモメ